

アンケートのお願い



本日はご来場ありがとうございました。今後の参考とさせていただくため、アンケートにご協力をお願いいたします。各質問のあてはまる回答の番号に○をつけてください。第2部にご参加の方は、第2部終了後にお出してください。

N=41

あなた自身のことについて教えてください。

- 問1 性別 1. 男性 20人(49%) 2. 女性 20人(49%) 無回答 1名(2%)
- 問2 年齢 1. 20歳以下 2人(5%) 2. 21歳~40歳 22人(54%)
3. 41歳~60歳 11人(27%) 4. 60歳以上 6人(15%)
- 問3 お仕事 1. 会社員 6人(15%) 2. 自営業 0人(0%) 3. 主婦 5人(12%)
4. 学生 16人(39%) 5. 公務員 5人(12%) 6. 無職 2人(5%)
7. 酪農、畜産業 1人(2%) 8. 教職員 4人(10%) 9. 飲食業 0人(0%)
10. その他 2人(5%) (団体職員)

本日の熟議場について教えてください。

- 問4 本日の熟議場を何で知りましたか。
1. チラシ・ポスター 14人(34%) 2. ブログ・ホームページ 3人(7%)
3. メール 3人(7%) 4. 知人等からの紹介 10人(24%)
5. その他 7人(17%) (札幌消費者協会・学校・授業・大学内・授業の一貫として・仕事の関係) 無回答 4人(10%)
- 問5 本日の熟議場に参加を決めた理由はなんですか。当てはまるもの全てに○を付けて下さい。
1. BSE問題について知りたかった 22人(54%) 2. 吉川先生の話を知りたかった 8人(20%)
3. 吉川先生に質問がしたかった 0人(0%) 4. 3人の鼎談を知りたかった 7人(17%)
5. 参加者同士での議論に関心があった 4人(10%) 6. BSE問題について話したいことがあった 0人(0%)
7. 人に勧められた 7人(17%) 8. その他 () 6人(15%)
- ・ 話題になっていた頃、情報収集していました。メディアが取り上げなくなってきた「その後」の最新情報を知りたいと思い参加しました。
 - ・ 振り替え講義
 - ・ 大学院講義として
 - ・ 授業として指定
 - ・ リスクコミュニケーションに興味があった。

■問6 本日の熟議場のどちらに参加しましたか。

1. 第1部のみ 19人(46%) 2. 第2部のみ 1人(2%)
 3. 第1部と第2部 18人(44%) 無回答 3人(7%)

■問7 本日の熟議場はいかがでしたか。

熟議場全体 N=41	1. 良かった 27人(54%)	2. 普通 10人(10%)	3. 良くなかった 0人(0%)	無回答 4人(10%)
吉川先生の話(第1部) N=40	1. 良かった 29人(73%)	2. 普通 9人(23%)	3. 良くなかった 0人(0%)	無回答 2人(5%)
質問タイム(第1部) N=40	1. 良かった 21人(53%)	2. 普通 14人(35%)	3. 良くなかった 0人(0%)	無回答 5人(13%)
3人の鼎談(第2部) N=22	1. 良かった 15人(68%)	2. 普通 5人(23%)	3. 良くなかった 0人(0%)	無回答 2人(9%)
グループ討論(第2部) N=22	1. 良かった 16人(73%)	2. 普通 4人(18%)	3. 良くなかった 0人(0%)	無回答 2人(9%)
まとめの討論(第2部) N=22	1. 良かった 15人(68%)	2. 普通 5人(23%)	3. 良くなかった 0人(0%)	無回答 2人(9%)

■問8 本日あなたが新しく知ったことはありましたか。当てはまるもの全てに○を付けて下さい。

1. BSEの科学的な側面 18人(44%) 2. 日本のBSE対策 14人(34%)
 3. BSEに関わる様々な立場の意見 13人(32%) 4. BSE問題に関する市民の議論 9人(22%)
 5. その他 3人(7%) 6. 特にない 1人(2%)

1~5までを選ばれた方は、よろしければその内容を具体的にお書きください。

- ・ 本当の原因は?であるが対策としてはうまくできるの説明か?
- ・ 管理されたリスク国から、無視できるリスク国になることによって、メリットは、コスト削減だけなのか
- ・ EUの検査月齢の変遷など
- ・ ・2013年に日本が無視できるリスク国になりそうだということ。・現在の日本の対策のシステムが非常に複雑で、どううまく機能してなさそうだということ
- ・ 非定形BSEについて、初めて知った。
- ・ 非定形BSEの発生、なぜ回腸遠位部にプリオンが蓄積するのか
- ・ ・異状プリオンは遺伝子をもたないということ・正状なプリオンと異状プリオンのちがいは、アミノ酸組成は同一がたたまたまされ方がちがうということ
- ・ ウィルスでも細菌でもなく、タンパク質の変異という様な事。
- ・ ・BSEの対策について。・BSEの発症数はかなり減っていること(1日100頭→年70頭)・消費者の意見、安心と安全のハードルをいかに下げるか
- ・ 発生状況
- ・ 生産者がやるべき仕事はどれだけあるか、とても大変なことが分かった。
- ・ リスクを無視できる国に13年になろうと思えばなれる段階に達していること

- ・生産者の方のお話：トレーサビリティ確保のための作業がとてふえ、書類の管理も大変になっているということ。・生産者の方の労力、検査員の労力がリスクの大きさと見合っていないということ
- ・BSE について知る術をあまり持たないという方が多くいらっしゃることに、ちょっと驚いており、そこを一方的な説明ではなく、どのように判らないのか、どうすれば伝わるのか、双方向に応答できる議論ができれば、いままでより良いコミュニケーションができるかも知れないことが判りました。

■問9 本日熟議場に参加することによって意見や考えが変わったことはありますか。当てはまるもの全てに○を付けて下さい。

1. 日本のBSE 対策のあり方 18人(44%)
2. 牛肉輸入のあり方 2人(5%)
3. BSE 問題に関する市民の議論のあり方 11人(27%)
4. その他 1人(2%)
5. 特にない 0人(0%)

1~4 までを選ばれた方は、よろしければその内容を具体的にお書きください。

- ・これまで全頭検査＝食の安全確保のイメージが強かった
- ・コストが無限大にかかるというのがありましたが、BSE だけに、そんなにお金を使ってしまっているのか。地域医療にも力を入れなければと思います。
- ・これまでは対費用効果を考えて「全頭検査はやめて月齢を限って検査すべき」という意見でした。本日伺った科学的事実と、2013年のことを考えると・2013年に向けて、規制緩和措置を考えたかなければならないということ・(ソフトランディングに向けて) そのために、市民が納得できるようなシナリオを考えるべき時期にあること・対策を「誰が考えるのか」「どのように周知するのか」「どうすれば多くの人々が納得できるのか」そういうことを考えて議論するために、今回のような場があるのだと理解しました。
- ・このくらい長時間、聞き話しをすることはとても大切だと思った。
- ・ただし、牛肉、あるいは品質が良い牛肉を輸入する場合、国内の畜産品である牛肉あるいはBSEなどのことが生じる可能性があると考えられる。
- ・リスクのない国に日本がなるということの意見をうけて、それについての考え方。
- ・コミュニケーションの方法・取り方
- ・色々な立場の人が自分の言葉で語ることの必要性・有効性を感じた。
- ・結局、リスクコミュニケーションがうまくいった事例はあるのか？
- ・結局、興味を示さない majority の方々には、このような議論をしても影響しないのではないかと、悲観的に考えていたが、「ボトムアップ」につながるのだということを教えていただいた。
- ・上記と重なるので省略

これからの熟議場についてお聞きします。

■問10 またこのような熟議場が開かれた場合、出席したいと思いませんか。

1. 是非出席したい 13人(32%)
2. 出席したい 21人(51%)
3. どちらともいえない 7人(33%)
4. あまり出席したくない 0人(0%)
5. 出席しない 0人(0%)

■問 11 これからの熟議場が開かれたらどのようなことを期待しますか。

- | | |
|-----------------------------|---------------------------------|
| 1. 新しい知識を聞きたい
21人(51%) | 2. さまざまな立場の人の話を聞きたい
24人(59%) |
| 3. 参加者同士の議論を深めたい
5人(12%) | 4. 自分の考えを話したい
0人(0%) |
| 5. 提言や提案を行いたい
4人(10%) | 6. その他()
0人(0%) |

本日の熟議場やBSE問題についてご意見がありましたらご自由にお書きください。

- ・ ありがとうございます。
- ・ 大変わかりやすく、面白かったです。今後も、このような企画があれば参加したいです。
- ・ 参加してよかったです。最新の状況がわかりました。いろんな立場の方や理解の深さの違う方が参加されているので、本日の構成はこれで妥当なのだと思いますが、個人的にはリスク分析のお話をもう少し聞きたかったです。都合で第2部に出られなかったのが残念です。議論の流れの概要をwebで公開していただければと思います。
- ・ 講演の対照者レベルが、はっきりしていないような気がした。専門的な話ならもう少し詳しくても良かったし、一般対照なら、もう少し、基礎的な話でもよかったのではないかと。正常プリオンの話からでも・・・。
- ・ 司会者の話し口調が極めて不快だった。
- ・ きっかけはつかめるかもしれない、と感じた。正しく怖がること、思考停止しないことを自分なりに、勉強しながら、施策に反映できる仕組みを考えていきたい。
- ・ 勉強になりました。皆さんの意識が高くて驚きました。
- ・ 第1部会場が寒かったです
- ・ 色々な立場をそれぞれにとり上げ、焦点をあてて行ってほしい。例) 消費者の立場を中心とした、研究者の…それによって、自分の立場と、自分自身をふり返る。→「どうする？」につながるのでは？
- ・ 色々な立場をそれぞれにとり上げ、焦点をあてて行ってほしい。例) 消費者の立場を中心とした、研究者の…それによって、自分の立場と、自分自身をふり返る。→「どうする？」につながるのでは？
- ・ 「OIE/BSEの国の評価の転換(無視できるリスク国へ)」と「全頭数検査の是非」という、関連は、私にとっては、少し奇異でした。国の第3者機関(OIE)による評価は、貿易相手国が設けた非関税障壁に対する提訴を裁定する際に用いられるものです。日本における本来無用な全頭数検査の廃止を導くものとは思えません。無視できるリスク国であっても安心の上乗せのために、検査を継続することは無くはないので、評価の転換は議論の一つのきっかけ程度でしかありません。今すぐやめても問題ないことです。むしろ、米国が近い将来「無視できるリスク国」になる時に彼らの主張を認めるか、の方が大きな議論になると思います。その時、日本が無視できるリスク国だからと外へ主張する事柄を、同じように米国製品で認めるでしょうか。WTOの目的は平等な自由貿易です。物づくりでは、工業製品も農業製品も同じでしょう。検査で不良品を選別して出荷するよりも、もともと良品ができるような(不良品を極力減らす)仕組みを決めて実行するのがまず重要です。検査はその「うまくいく仕組み」が目標通りに機能しているかどうかを評価し、それをもとに適切な是正が施される、モニタリングである、と思います。農業に

においても農業生産工程管理（GAP）が検討されていることと思います。食品製造業では製造・品質管理基準（GMP）があります。プリオンの解明、発症の機序は全て解明されていなくても、BSE発症の再現性、定量的モデル評価ができる現在では、BSE対応のGAPがまずあって、その上で行うモニタリング、というのは生産に携わるものとしては至極納得できる管理ではないか、と思います。以上です。ありがとうございました。

ご協力ありがとうございました。